丹高ニュース

№3

令和4年6月14日(火)

～ 豊かな学びの実現 ～

校則見直し 対話で探る

西条・丹原高で始動

地域住民も参加 意思決定力磨く

どうして、ツーブロックは校則違反なんだろう―。西条市丹原町願連寺の丹原高校で12日、校則を通して、生徒の意思決定などの力を高める「ルールメイキングプロジェクト」が始まった。同校では1年かけて校則の検討を行う予定で、生徒や保護者、教諭など約60人が見直しの指針づくりのために意見を交わした。

同校は、生徒の声を反映して2021年度からLGBTQ（性的少数者）にも配慮した制服に変更。「制服の次は、校則を考えてみようとなった」と谷口大祐教諭は説明する。そんな時に知ったのが、認定NPO法人カタリバ（東京）が19年から全国で行う「みんなのルールメイキングプロジェクト」だった。

同プロジェクトは、校則の変更を目的とせず、生徒や地域住民らが対話を重ねて、納得解を導き出す過程を重要視。同校はプロジェクトのパートナーに登録し、生徒主体で校則の見直しや地域住民への聞き取りなどを行う計画だ。

初回の12日は、カタリバの担当者が「学校の当たり前は自分たちで変えられる」などと主体性や対話の重要性を解説。生徒らは10班に分かれて、髪形やスマートフォンなどの校則について教諭らと議論し、「固定観念にとらわれない」「変わり続けられる校則」など見直す上で大事にしたい文言を発表した。

参加したPTA会長の松木孝造さん(46)は「自分たちのころは校則への不満や反発だけだったが、今は『変えるためにどうすればいいか』と考えていて素晴らしい」と話し、生徒会長の3年酒井ひかりさん(17)は「なぜ、校則があり、なかったらどうなるかなど、いろいろな視点から考えたい」と前を向いた。

校則については、全国で「ブラック校則」と呼ばれる不合理な校則の問題が顕在化。文部科学省が昨年度から進めている教員用手引書「生徒指導提要」の改定案では、校則を学校ホームページ（HP）に公開することや、校則の意義や制定背景を示すことが適切としている。（竹下世成）

校則を見直す上で、大事にしたい指針を話し合う生徒ら＝12日午後、西条市丹原町願連寺

ルールメイキングプロジェクト始動！

対立ではなく対話への変換。
変えられないものから、変えられる未来を作る。
学校や地域の課題を解決するために、生徒・教員・保護者・地域が一体になって取り組んでいます。

令和４年６月14日（火）付け愛媛新聞
（掲載許可番号d20220614-01）

Rule Making Project